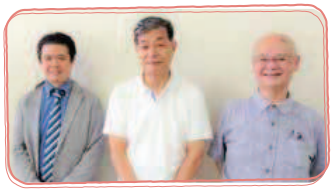
ホッ…と心愛（ここあ）

～このコーナーは、市内で福祉活動をされている方や団体にスポットを当てたインタビューコーナーです～

今号では、「みんながつながる ちがさきの地域福祉プラン2（以下、計画）」（詳細は本紙中面参照）の策定や推進に携わる本会の「地域福祉活動計画推進委員会（以下、委員会）」から、青柳雅之委員（特別養護老人ホームカトレアホーム施設長）、阿部廣委員（茅ヶ崎ボランティア連絡会）、井上明委員（茅ヶ崎地区民生委員児童委員協議会会長）にインタビューをさせていただきました。

①初めて委員になられた時のご感想は？

青柳委員）委員会があるのは知っていたし、委員会の名前を聞いて福祉の計画を作る役割だってことはわかったんですけど、中身については正直わからない状況でした。



阿部委員）前任者から、こういう（計画の委員）役割があるからこれ読んでおいて、と前計画をポンと渡されて、「なにこれ！」といった感じでした。こういうものがあること自体、全然わからなかったので。

井上委員）民生委員になって、茅ヶ崎地区の会長になったら計画の委員の役が割り当てられて…。前計画は配布されて知ってはいたんだけど、はっきり言ってよく読み込んではいませんでした。

②委員会で計画の策定や推進に携わり、今はどのように感じていらっしゃいますか。

青柳委員）委員会は、茅ヶ崎全体のことをすごく真剣に考えておられる方の集まりだなと思います。仕事をさせてもらっている茅ヶ崎が、ちょっとでもよくなってくれればという思いはもちろんあるんですけど、それ以上に住民の方々の思いに、すごく熱いものを感じて、自然とこちらも考えなきゃなって。

普段は施設で仕事しているので、地域の方と話す機会もなかなかなかった。委員会がきっかけで、こちらから積極的に地域に足を運ばせていただいた時期もあって、自分にとっても勉強になるし、意義のある活動だったなと思います。

計画は、茅ヶ崎の住民一人ひとりに見てほしいので、作る時はできるだけ柔らかい印象のものを作れたらと委員会で意見を言わせていただいた。前回の計画よりもさらに柔らかい感じになっていて、思いを汲んでいただけたなと自己満足ですけど（笑）思っています。

井上委員

阿部委員）中身を少しずつ理解するようになって、ああ、そうか、本当に必要だなぁって感じています。ボランティアは、一つの活動が終わって感謝されると「やってよかったな」と思って活動が終わってしまう。でもそのあとに続く仲間を育てていかないと、ボランティアそのものが立ち行かなくなってしまう。

ボランティアに携わっているけれど、ボランティアだけではダメなんですよね。行政、市社協、施設や地区のボランティアなどいろいろなところと連携して、問題を共有して、ともにやっていかないと。だからこそ、この計画は必要なんですよね。

井上委員）この計画は、なんとなくストーリー性があってわかりやすい。これが絵に描いた餅にならなければいいなと思って。

阿部委員

福祉って難しいですね。なんでもありっていう感じがします。人によって受け止め方も、考え方も違うし。普通のおじさん、おばさんとかに声をかけて、「福祉についてどう思う？」って話を聞いたらいろいろな意見が出てくると思う。そういった意見を計画に反映したいですね。

③計画推進に向けたアイディアがあったらお聞かせください。

青柳委員）強み弱みの物々交換というか、みんなができることを言い合えるような関係性ができるといいなと思います。例えばうちの施設では、施設の車だったり介護の方法だったり、福祉に役立つ資源を持っている。それを地域に活用していただけることを、地域の方は知らなかったりする。なので、施設としてうまくマッチングできるような情報発信がやりたいなと思っています。

投げられたボールをしっかりとれる、投げたボールをとっていただける、そういう関係性にしたいですね。

阿部委員）自治会にお願いして、ボランティア講座のチラシを初めて回覧してもらったりと、情報発信の仕方を工夫しました。この計画も、ボランティアをやっている人でも知らない人もいるので、これから私がもっと仲間に伝えていかなきゃなと思っています。

青柳委員

井上委員）人と人とのつながりは、支援する人される人というようなものじゃないと思うんですよね。だから、支援を受けている人も支援している側の一人ということをみんなが理解して、計画を一緒にやっていかないとと思っています。

最近は自治会に入る人も少ないけれど、地域と一番つながりを持てるのは自治会じゃないかな。

自治会加入は任意だけど、加入するメリットとか、地域のボランティア情報とか、もっと積極的な情報発信をしていかないと…と感じています。

④最後に、一緒に計画を推進していく仲間である市民「みんな」に言お願いします！

青柳委員）この計画は茅ヶ崎市民であれば関係ない人は誰もいないし、ここには自分のやさしさを形にしたり、自分の課題を解決する材料が入っていると思っています。当事者意識をもって計画の中身を見て、身近なものにしていただきたい。必ず自分ができることがあると思うので、できることをやっていただけたら最高だし、それを見つけるだけでもいいと思います。

阿部委員）計画にあることは、何事もなければ全然関係ないと感じても、いざというときに必要になってくるものです。明日は我が身だと思って、こういうのがあるんだと知っていただきたい。で、都合が悪いところは「ここは直してもらいたい」と意見を言ってもらいたい。そうすれば、この計画もよりよくなっていくと思います。

井上委員）自分に何も影響がないときには、福祉って空気みたいな存在で、何かひとたびことがあると動き出すという気がします。計画をみんなに知ってもらって、みんなで進めていかないと。

この計画をみて、自分に何ができるかというのを探してもらいたいですね。自分が「できる」なんだよね。「してもらう」だけではなくて。年齢にかかわらず、自分は何ができるかというのを探してもらうというのは、すごくいいことだと思います。

広報紙「社協ちがさき」へのご感想や、ご意見・ご要望（「ホッ…と心愛」でこんな活動をピックアップしてほしい！等）をお寄せください。

eboshi@shakyo-chigasaki.or.jp

夏休みおやこ手話教室のご案内

※新型コロナウイルス感染症の状況により、本講座は中止・延期となる可能性があります。

手話を通して若年層からの福祉との出会いを広げ、ボランティア活動参加へのきっかけとなることを目的として開催します。

◎簡単な自己紹介ができるようになります。

◎ボランティアさんと聴覚障がい者の方と一緒にやさしい手話を学べます！

◎ゲーム（買い物ゲーム・おもしろすごろくゲーム・ビンゴゲーム等）を交えながら楽しく手話に挑戦！

とき▼7月26日（月）から7月30日（金）
連続5日間　10時～11時30分

ところ▼さがみ農協ビル2階　B会議室

定員▼24名（先着順）

参加費▼無料

お申込方法▼
①お名前（ふりがな）
②〒住所　③電話番号　④学校名と学年を明記のうえ、電話やFAX、メールのいずれかにてお申込ください。

お申込・お問合せ▼市社協（ボランティアセンター）
電話▼（85）9650
（平日8時30分～17時15分土日祝休み）
FAX▼（85）9651
メール▼vc@shakyo-chigasaki.or.jp

新型コロナウイルス感染症予防対策について

以下についてご協力お願いいたします。
・マスクの着用
・入室前の手指消毒
・検温の実施（37.5度以上ある場合はご出席をお控えください）

託児について
・2歳以上の未就学のお子さんを講座中お預かりします（応相談）
・7/16（金）までにご相談ください。